

産業×建築
Industrial×Architecture

佐藤信治¹, 〇市川莉子¹
Shinji Sato¹, * Riko Ichikawa¹

The domestic industry is in danger of disappearing.

By 2050, the number of women aged 20~39 in Japan will decrease to less than half, and 744 municipalities nationwide, or 40% of the 1,718 municipalities currently in Japan, may disappear. Most of the attention has been focused on the disappearance of local governments, but there is something that will surely come before that. That is the "crisis of industrial extinction" There are many domestic industries in Japan, and there are still many industries that should be disseminated to the world.

1. はじめに

国内産業が消滅の危機の状態である。

近年、話題に取り上げられている「消滅可能性自治体」.2050年までに、日本国内の20~39歳の女性は半数以下に減少し、現在全国にある市町村数1,718のうち、40%に当たる、全国744の市町村が消滅する可能性がある。注目されている大半は自治体消滅の話でしたが、その前に確実に訪れるものがある。それが「産業消滅の危機」です。商圏から顧客、消費者、働き手が、自治体が維持できなくなるほどいなくなるため、放置すると産業が消滅します。日本の国内産業は数多く存在し、世界にも発信すべき産業もまだまだあります。そんな産業を建築の力で復興させる提案を今回考えます。[1]

2. 計画背景

2-1. 全国のお茶の現状

多くの国内産業があるなか今回私は茶業に着目しました。日本ならではの昔から伝わる伝統であり、今も多くの人が毎日飲んでいるお茶ですが、消滅の危機にあります。平成18年(2006年)から令和4年(2022年)までの17年間で、生産量は17%の減り、栽培面積は25%の減りました。生産量においては、前年比でプラスになっている年もありますが、17年間で平均すると毎年マイナス0.94万トンというスピードで減少していることになります。またこのままこのパーセンテージで減少を続けると仮定して単純計算をすると、17年後には6.1万トン。40年後には、令和4年(2022年)の7.7万トンの約半分、3.86万トンにまで減少することになります。[2]

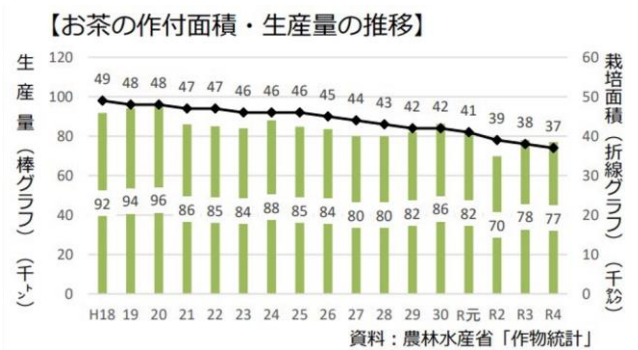


Figure1. Changes in tea acreage and production volume

2-2. 世界のお茶需要

全国でお茶の生産が衰退している現状ではありますが、一方で明るい話もあります。令和4年(2022年)の緑茶の輸出額は219億で過去最高額となりました。健康志向や日本食への関心の高まり等を背景に、特に抹茶を含む粉末茶の需要が拡大しており、平成18年(2006年)からの17年間で、輸出額は約7倍になりました。また



Figure2. Green Tea Exports

「緑茶の輸出価格」も右肩上がりとなっています。[2] このことから海外の方のお茶への関心が強く需要が高まっていると考えられます。

1: 日大理工・教員・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University.
2: 日大理工・学部・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University.

3. 敷地選定

3-1. 埼玉県入間市

入間市は埼玉県下全般に生産されるお茶、狭山茶の主産地である。その生産量、栽培面積も県下一を誇っています。狭山茶は比較的冷涼な台地や丘陵地帯で生産され、摘採は春夏2回行われている。しかし耕作放棄地の増加や後継者不足の問題が起きている。

3-2. 計画敷地

埼玉県入間市にある茶畑テラス茶の輪を計画敷地とした。現在狭山茶の生産が1番多い入間市であります、中でもこの土地は広大な茶畑の中にテラスが設置されており、茶畑に囲まれながらお茶を楽しむことができる。しかし、知名度はまだ低く、市街地からも離れているため人が集まりにくい現状にある。また、敷地内には耕作放棄地も多数点在しており、この場所に対して何かアプローチが必要であると考えた。耕作放棄地が点在していることから、全国で起きている放置されて荒れ果てている畑の再利用も促すことができ、本提案に適している敷地であると考えた。またこの地域は高齢者が多く若者が少ないことから、将来的に消滅してしまう可能性があり、他地域からの人の呼び込みが必要になる。全国でもこのような場所は多くあり、他地域にも対応できるプロトタイプとして提案する。

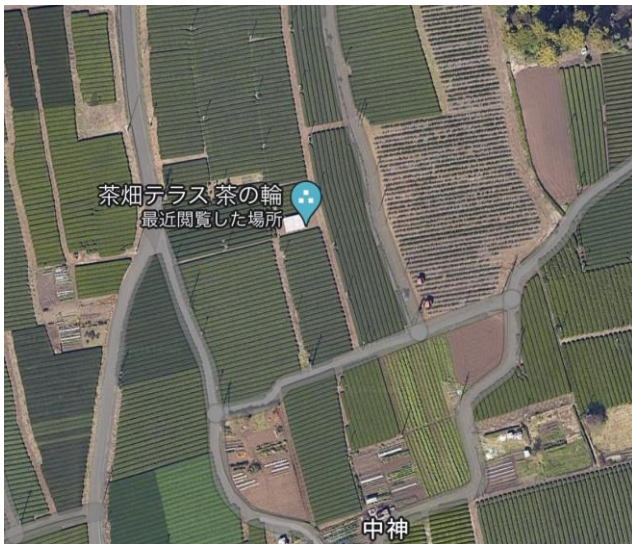


Figure3. Google Maps

4. 基本方針

4-1. コンセプト

茶畑テラスを活かした産業体験と宿泊施設。人間にとって生活の基盤となる農業を基本体系としながら、持続可能な循環型のコミュニティを実現する、エコヴィレッジ的建築を提案する。伝統的な農法やライフスタイルを現代風にアレンジし、自然と寄り添

いながら暮らす。また農業体験を行うことで価値ある時間を過ごすことができ、農家側も作業を手伝ってもらえるため負担が減り、人不足の解消になる。

5. 計画

5-1. 全体計画

まず敷地内の耕作放棄地にそれぞれ宿泊棟、体験棟、共通部を作り、1つのエコヴィレッジを作る。

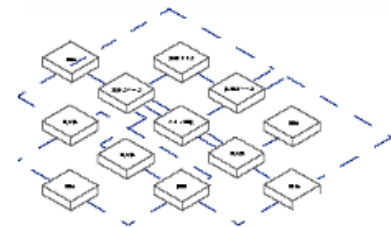
5-2. 必要な機能

- ・ 宿泊棟(8棟)
- ・ 管理棟(1棟)
- ・ 体験棟(4棟)
- ・ 共用部分(3棟)
- ・ 川から水を引っ張る仕組み
- ・ 電気を作る仕組みや施設
- ・ 敷地内の移動を楽にする機能



5-3 仕組み

敷地全体に点在している宿泊棟と体験棟を隣同士にすることで宿泊者は茶業や農業を体験でき、非日常体験の提供をする。また季節によって変わるため1年の間様々な体験が可能。施設内でできる限り水道も電気も賄い、エコヴィレッジを作り上げる。



参考文献

- [1] 国内産業,消滅危機…
<https://sinb.jp/2024/04/30/>
- [2] 日本茶 BANK | 日本茶 BANK が紹介するお茶の事
<https://teabank.jp/column/column765/>
- [3] 狭山茶の基礎知識 / 入間市 | 香り豊かな緑の文化都市
<https://www.city.iruma.saitama.jp/soshiki/nogyoshinkoka/9/10/627.html>